

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	海老名市立今泉小学校校舎増築工事	階数	地上4F
建設地	海老名市上今泉2028番地	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	750人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年6月30日
敷地面積	3,472㎡	作成者	(株)久慈設計東京支社
建築面積	807㎡	確認日	2020年7月10日
延床面積	2,790㎡	確認者	(株)久慈設計東京支社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 92%

③上記+②以外の 92%

④上記+ 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	2.6
空気環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	3.3
耐用性	2.9
対応性	3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

建物外皮	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム	2.9
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.0
非再生材料	3.6
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	3.3
地域環境	2.4
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 小田急小田原線海老名駅から徒歩15分の市街化調整区域のJR相模線に近接した地域に、小学校の校舎増築を計画した。		
<b>Q1 室内環境</b> 対象建物が小学校のため、喫煙については敷地内全面禁煙となっており、たばこの煙とは完全に切り離された空間で活動を行うことが可能である。	<b>Q2 サービス性能</b> 防汚性・耐久性に優れた長尺ビニル床シート、天然木材保護塗料を採用することにより、メンテナンスにかかる負担を軽減し、維持管理の効率を向上させる計画とする。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 施設使用者が除草作業を行ったり、運営者が運用計画を策定したりと地域性・アメニティへの配慮の取り組みがなされている。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> =0.62	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 「陶磁器質タイル、ビニル系床材、Iマーク取得ボード」といったIマーク認定されたリサイクル資材を導入する。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 排出率=92%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される